

# 『ここにも怪獣！ほら！』 4歳児10月 神功こども園



## エピソード

ある日、「あ！怪獣！」と、A児が園庭の築山に“あるもの”を発見！それは、怪獣の足跡のようなものでした。近くにいた子どもたちも「どこどこ？」と集まってきました。怪獣の足跡出現に、子どもたちは興奮しながらもとっても真剣な表情に・・・反対側の斜面にも足跡が発見されると、一斉に移動して「これは本物や！」とみんなで頭を突き合わせ見えています。

そのような中、通りかかったB児が「それ、矢印だよ。僕が描いたんだ」と、ポロっと呟きました。それを聞いたC児が「わかった！ガオくん（怪獣）が矢印の方に行ったんじゃない？」と言うと、B児「あ～そうだね！ここを通過して・・・」と、新たに足跡（矢印）を書き足しました。するとC児は「ガオくんは大きいから、もっとでっかい足跡にしたら？」と、全身を使って大きな足跡を描きました。周りにいた子どもたちは、「でっか！」「こっちにも描こう！」と、嬉しそうに笑いながら次々と足跡を描き始めました。

## 子どもの育ちや学び

○ 身の回りの出来事を

発見

経験から  
連想

○ 自分が思うこと ⇄ 友達の思うこと

違い

“なるほど” “それいいな”

相手の考えを受け入れる

友達と遊びを展開していく

## 保育者の思い

- ・日頃から、自分なりに感じたり思いついたりしたことを伸び伸びと表現して楽しんでほしいと思っています。
- ・一つのものでも自分と友達とでは異なる見方や考え方がることなどにも気づき、耳を傾けようとしていたり受け入れたりしていけるようになってほしいと考え、援助することを心がけています。

## 家庭だったら・・・

- ・地面に指や枝でお絵描きすると、紙に描く時とは異なる感触や見え方がして楽しいですね。
- ・木の木目やマンホールなど、身の回りにあるものでもよく見ると顔や何かに見えることがあります。「何に見えるかな？」と一緒に目を向けて探してみるのも面白いですね♪

## 子どもの育ちや学び

- ・身の回りに起きたことを、自分の経験から知っているものへと連想して、それぞれにそのイメージをもったり膨らませたりして遊ぶ姿がありました。
- ・自分が思うものと友達が言うものが異なる場面が生まれましたが、相手の意見を否定したり自分の意見を一方的に伝えて終わったりするのではなく、きっとこの時の子どもたちの心には・・・“なるほど” “たしかにそれもいいな”というように友達の言うことを受け入れたり素直に共感したりする気持ちが生まれていたのではないかと感じます。